

2016 年度通常総会のご報告

NPO 法人アクションおっぱまの 2016 年度通常総会は、6 月 3 日(金)午後 3 時から午後 5 時、横須賀市追浜行政センター 2 階会議室で開催されました。

会員総数（総会での議決権のある正会員の総数です）39 名、従って過半数は 20 名のところ、当日は 29 名の出席（内 14 名は委任状による書面表決者）で、成立いたしました。なお、開会に先立って、5 月に死去した福島仁副理事長の冥福を祈って全員で黙祷しました。

総会では、2015 年度事業報告書、同活動計算書、監査報告、2016 年度活動計画書、同活動予算書、役員案が満場異議無く承認されました。議事終了後、第 2 部として「空き家・空き店舗の活用」をテーマに、吉田洋子理事の報告をうけて活発な意見交換がありました。

2016 年度の主要事業は、空き家・空き店舗活用プロジェクト、追浜の自然や歴史遺産を活かすフィールドミュージアム構想の検討、第三海堡遺構の保存・活用、おっぱまワイン寄席やこみゅに亭カフェを利用したイベント等、各種団体との交流やまちづくりに関わる人材育成など継続して取り組むものの他、今年度は追浜の新しい特産品の企画が加わりました

午後 5 時半からは、場所をこみゅに亭カフェに移して懇親会が催され、おっぱまワインを飲みながら、和気藹々のうちに散会しました。

今年度もまた、アクションおっぱまへのご協力とご支援をよろしくお願い致します。

(NPO 法人アクションおっぱま理事長 昌子住江)



NEW おっぱまガイド リニューアル

追浜駅交番前の色あせていた周辺案内を「おっぱまガイド」としてリニューアルしました。NPO 法人アクションおっぱまとおっぱまはっけん倶楽部のメンバーが現地を歩いて調査し、何度も修正をしながら、およそ 1 年の制作期間を経てようやく完成した案内図は色鮮やかになり、追浜の史跡・旧跡・見どころを写真や説明文を配してわかりやすく、見やすくなりました。また、4 つに分けたハイキングコースも加え、観光に来る方にも地元の方でも、追浜の魅力を存分に感じてもらえるようなコースとなっています。駅にお立

ち寄りの際には是非、ご覧になってください。

(NPO 法人アクションおっぱま副理事長 河村啓子 記)



● 湘鷹みんなの部屋 オープニングセレモニー

8月11日(祝日)、『コミュニティひろば 湘鷹みんなの部屋』のオープニング・セレモニーが行われました。

横須賀市湘南鷹取4丁目、鷹取小学校と「西友鷹取店」から徒歩1分の立地。3000世帯を擁する団地内の中央広場に位置します。

湘南鷹取内の諸団体、自治会連絡協議会・PTA・老人会・子供会・民生委員などが集って方向性を検討、「老若男女すべてが自由に利用できる部屋」を目標に掲げました。

期せずして「公共圏」の誕生です。たまたまその場にいた人が思い思い参加して、コーヒー1杯で様々な話題を語りあい、思い思いに去っ



ていく——そんな広場が1階にあります。2階には3つの部屋があります。そこには特定の人達がさまざまな目的を持って集うサロンもできました。ここからは、様々な情報が発信されていきます。



この場に人々が集うことにより、「世代を超えた交流を実現したい」というのが我々の願いです。核家族化した少子高齢化社会の問題が深刻化する中、地域社会における世代を超えた交流を実現することにより、お年寄りにも、お父さん、お母さん、子どもたちにも青少年にも「しあわせ」をもたらすきっかけになるような仕掛けはないだろうか？ そんな疑問への我々なりの試答です。

いつか文字通り「みんな」の部屋になる日を私たちは目指しています。

(湘鷹みんなの部屋呼びかけ人 藤島紀雄 水戸靖男 小柳茂秀)

● 定年後の歩み

私は1998年、ビルメンテナンス会社を65歳で定年退職した。でも毎日が日曜日と化した日々、のんびりと休んでいる暇が無かった。その理由は3つ。

第1は在職中の1989年民生児童委員を委嘱され、高齢者や子育て支援活動に従事し、2012年満期終了後の今もデイサービスやその他のボランティア活動を続けている。

第2は2004年に「長寿だ! 元気だ! モデルは玄米菌だ!」(文芸社)という本を出版したことである。この本を私が書いた動機は、玄米は健康に良いと、昔から言われているが、その原因は玄米に存在している菌が関与していると思った。この菌は卒研時、私の恩師である故飯塚廣先生、駒形和男先生により発見された。定年後たまたまキノコ学者、今関六也先生が唱える「菌食論」を読み、米の細菌だけでなく、納豆、ヨーグルト、など菌食の重要性を書いて置きたいと思った。パソコンで「玄米菌」をクリックすると2016年現在今でもPRしている。日常食・災害食用に栄養

豊富な玄米ご飯缶詰が発売され始めた。

第3は1977年「化学症」(三省堂)という本を在職中に出版した。21世紀



に入り、にわかに化学症という言葉が独り歩きをし、この言葉がパソコンに乗ってしまった。シックハウス、シックビルと微量な化学物質による症状をしめす患者が出始め、化学症は注目を浴びる事となった。産婦人科医、池川明先生が「経皮毒」(2006年 日東書院)という書物で胎児が危ない、女性の体が危ない、と警告されている婦人グループが知ることとなり、私は化学症を講演せざるをえなくなった。

私は今後ともボランティアと2冊の本を基盤に地域の健康寿命の増進に努めて生きたい。

(NPO 法人アクションおっぱま監事 内野忠治)

● ら・ぶ・いん おっぱま ●

追浜観光協会 大村雅己 会長

＜追浜との関わり＞生まれは東京だったが、戦争中のため福井に疎開していた。その後戦争が終わり3歳ごろからずっと追浜に住んでいる。関東六浦小学校が昭和23年に生徒募集を行い、一期生で入った。中高も関東学院である。大学は日本大学の法学部に行った。大学を卒業して就職先がなかなかみつからず、父が勤めていた家電製品の小売店の従業員として働くことになった。昭和39年には東京オリンピックがあり、カラーテレビがよく売れた。そのうち大型量販店が家電を売るようになり、小売店は成り立たなくなっていった。昭和59年に再開発で新しいビルが出来たとき、電気店をレコード店に転換した。これを機に店を引き受けた。また、この再開発ビルの代表者にもなった。

＜観光協会との関わり＞観光協会は行政が作ったのだが、行政とかかわる仕事はそれまでまったく関心がなかった。しかし、いろいろな経緯で会長になってしまい、現在に至っている。

＜追浜に対する気持ちと追浜の変化＞生まれ育ったようなところだから、今も昔もよく知っている。次第に追浜のまちが衰えていく様子を見るのは寂しかった。昔は朝鮮特需や東京オリンピックでまちは賑わった時期もあったが、米軍の跡地が工業地帯になり工業地帯のおかげではやっていた飲食、物販業界も現在では厳しい時代になった。最近はまちが急に栄えるような大きな流れもなくなってしまった。追浜のまちは自然発生的にできたまちなので、多様に変

わってきている。皆困っていないのでまちを盛り立てていくことに熱心でないところがある。そのため追浜のまちの人々同士のまとまりはなかなか持てずにきたが、最近では地域運営協議会が動き出したり、だいぶ協力してやっていこうという雰囲気になってきたと思う。

＜追浜に必要なもの＞追浜観光協会を長くやってきたが、本来は若い人に引き継いでもらいたいと考えている。これからは色々な意味で風通しを良くする必要があると思う。情報の共有もその一つである。情報を共有し、住民も含めたいろいろな人でもっと真剣にみんなでまちの方向性を考えるような意識改革が必要だと考えている。まちには宿泊施設がないので宿泊施設も欲しい。また商店街が活性化しないとまちは活性化しないと考えている。追浜の消費者の不満もよく聞く。元気なまちだと思ってきたら元気がなかった。面白そう・入ってみたいと思わせるお店がないので残念といった声である。地域運営協議会のそれぞれのトップが協力的な人たちなので今がチャンスかもしれない。

＜追浜でやってみたい面白いアイディア＞放置自転車に悩まされているが、空き地にレンタサイクル施設を設けて追浜のまちを楽しく自転車でまわれると良い。そんな夢を持っている。
(2016年9月7日 NPO 法人アクションおっぱま理事 吉田洋子記録)



● 追浜地域包括支援センターのご紹介

地域包括支援センターには社会福祉士・主任ケアマネジャー・看護師がおります。業務は数多くありますが、その中に、地域で困っている高齢者の生活をよくするための会議を開く業務があります。

先日7月26日に湘南病院の大会議室でその会議を開きました。テーマは、「空き家の活用」です。地域には知人も友人もいなくて自宅で孤立している高齢者の方々がたくさんいます。そういった方々が気軽に立ち寄れる居場所を地域につくるために、空き家を活用できないか、参加者同士で話し合いを行いました。また、関東学院大学の准教授で、追浜で空き家の活用に取り組まれている

る兼子先生に、空き家の活用の実際についての講義もしていただきました。

今回は地域の自治会や町内会、ケアマネジャーや民生委員の方々を中心に35名の方々に集まいただきました。地域で活動している個人・団体がお互い知り合い、つながりをつくることもこの会議の目的の一つです。
(追浜地域包括支援センター・吉野智史 正会員)



● 第29回神奈川地域社会事業賞受賞—ご報告と御礼—

NPO 法人アクションおっぱまが、第29回神奈川地域社会事業賞（主催—神奈川新聞社、神奈川新聞厚生文化事業団）を受賞しました。

同賞は、福祉や文化、まちおこしなど多様な分野で活動する市民団体を顕彰するもので、今

年は神奈川県内の23団体から応募があったなかで3団体選ばれました。これも会員や多くのおみなさまのご支援の賜物と感謝し、今後の活動の励みといたします。

（NPO アクションおっぱま理事長 昌子 住江）

● ルネ追浜の親子サークル「おひさま」の夏祭り

今まで NPO 法人アクションおっぱまが「親子サロン」を支援してきましたが、今年度から自主グループが立ち上がりました。

（NPO 法人アクションおっぱま理事 吉田洋子）

「おひさま」は今年5月にマンション内で立ち上げた、未就園児の親の交流を目的とした自主サークルで、月に一度活動しています。また、未就園児の活動を主とした「よちよち」「てくてく」も毎月開催し、手遊びやリトミック等を行なっています。

7月には、初のビッグイベントとなる夏祭りを開催しました。魚釣りや宝探しなどのゲームコーナーや工作コーナー、皆で絵を作り上げる参加型のコーナーなど少人数で準備も大変でしたが、アイデアを出し合い手作り感いっぱいの

夏祭りができました。夏休みの小学生にも協力してもらったことは、異年齢での交流という意味でもすごく素晴らしいことだったと感じています。

まだ立ち上がったばかりですが、これを機にサークルが益々活気付くよう、更にサークルを超えて人の輪が広がるよう願っています。

（ルネ追浜居住者 磯見宏美）



● 新入会員のご紹介

綾部 豊樹さん

孫娘たちの世代の成長を優しく見守るコミュニティが求められるまちの姿かと思えます。

子供たちがふるさと追浜が楽しく活気のある姿になる様、まちづくりに関わって行ければと思っています。よろしくお願いします。

吉野 智史さん

はじめまして、吉野と申します。老け顔ですが平成生まれです。普段は湘南病院の2階にある追浜地域包括センターで働いております。追浜で働くようになったのはこの5月からです。よろしくお願いいたします。

追浜あんず通信 12号 2016年11月発行

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま

発行人 昌子住江

編集 NPO 法人アクションおっぱま編集委員会

編集後記

●追浜東町のニュー松の湯に、銭湯カフェがオープンしました。追浜にもさまざまなカフェが誕生しつつあります。（昌子住江）

●暑い日が続いていましたが天候不順が続くあつという間に秋の装いで多様な記事になりました。皆様協力ありがとうございました。（吉田洋子）

●風邪より恐ろしいのは自動車事故、危険予知のアンテナを張り巡らせてあんず通信は頑張っております。（内野忠治）

●産官学連携と良く言われますが、その基盤となるはずの地域内の連携、家庭、学校、町内会、商店街をもう一度新しい視点で繋ぎ合わせていきたいですね。（菊地真紀子）

●立冬を過ぎていよいよ冬です。世情も天候も不安定ですが、追浜は元気です。冬になっても楽しいイベントが目白押しです。ウエルカムおっぱま（河村啓子）